

AI・ロボット技術＝イノベーションドライバーズ となるためには

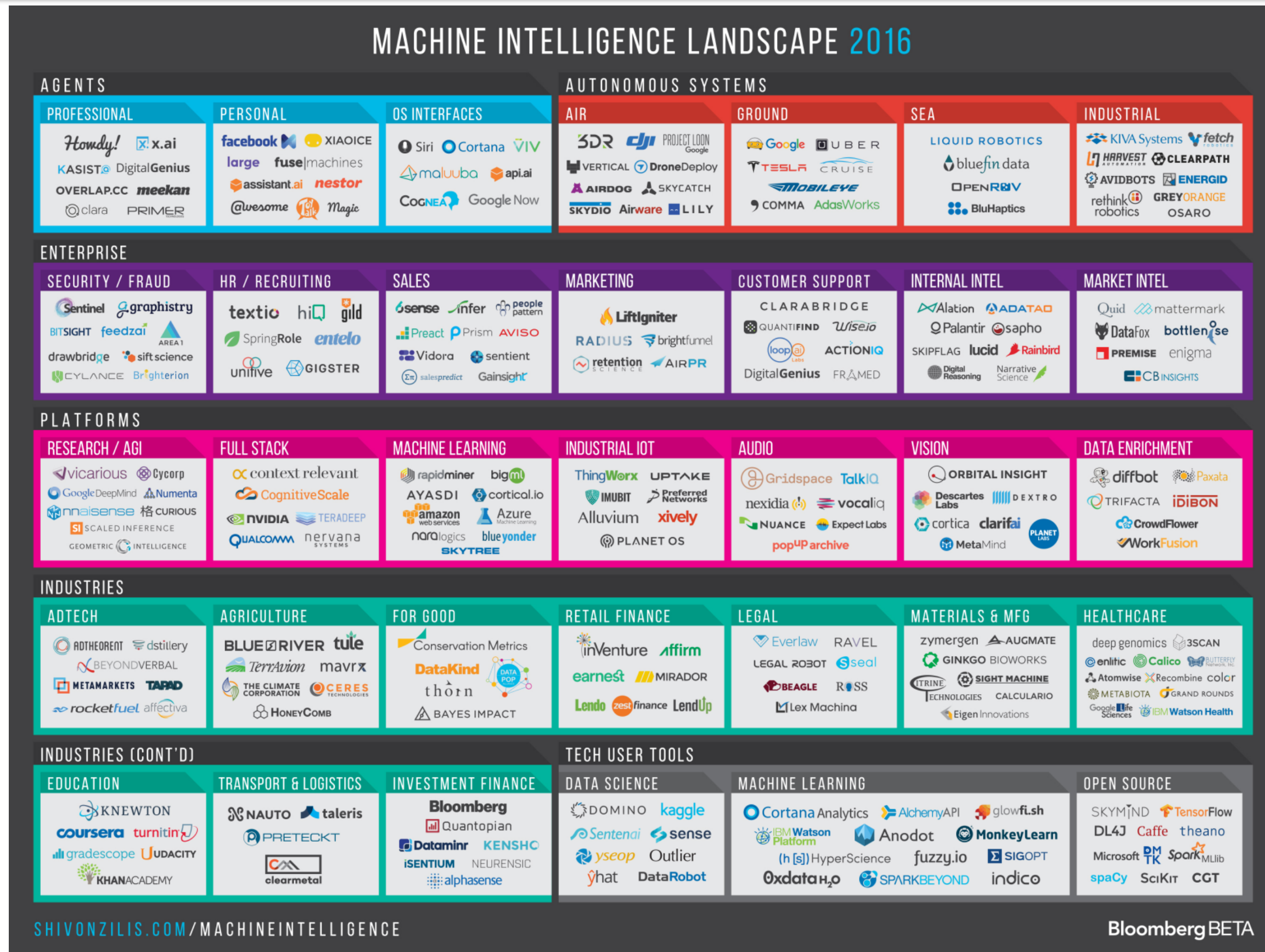
栄藤 稔

NTTドコモ イノベーション統括部長

株式会社 みらい翻訳 社長

大阪大学 サイバーメディアセンター 招へい教授

米国におけるイノベーション事例





- iPS細胞の話なら，上の絵は理解出来る．ICT分野ではこの発想が理解できない．シリコンバレーのAI/ロボティクス系スタートアップにこう言った2フェーズの考え方はない．“デスバレー”は死語．
- どうして多くの論文が“紙切れ”で終わるのか→新規性を求めて課題設定が実際に起こりうる問題より複雑化・細分化されている．
- 最初から事業化を構想する．AI分野では，新しいアルゴリズムを考える前に，最新のベストプラクティスを常に選択する．その上で足りないものを考える．アルゴリズムを考えるより，RDBMS, Spark + Tensor Flow, AWS, GCPを使いこなして欲しい．
- 5年後，数年後，10年後，20年後の社会や世界が必要とする技術をあらかじめ作り上げる気概を持つ．実現までに必要なすべての課題の洞察力・先見性が必要．
- 事業化できない研究は“Sustainable”ではないという自覚を持つ．

- 研究と開発は別. 研究の重要性は否定しない. それには「当ててやる」というシナリオが重要. そして, 開発タレントのあるメンバーを加えて, 最後までやり切る.
- BizDevOpsの時代に, 研究から手離れよく渡されたモジュールで事業化ができるとはとても思えない. 常に市場と向き合った改良が必要.
- IoT時代の事業化は水平(Horizontal)ではなく垂直(Vertical)な統合システムが有利. つまり, アルゴリズム開発・デバイス・顧客へのソリューション提供は一気通貫である必要がある.
- NICTへの期待: 民間企業ではできない①ハイリスク・ハイリターン研究開発, ②時間リスクのある研究開発(事業化が長期化するもの)③官需の民間移転④技術集積による委託研究の効率化
→ フランフォォーファ研究機構(独)をモデルにしたハイブリッド組織.

研究と開発の違い

研究とは:

高い価値があることは解っていても現在は出来ないことを、
技術のブレークスルーにより可能にするための活動。

⇒青い鳥を求める。実現できれば、2～3年は競合が追いつけない様な高い目標を狙う

開発とは:

確立された技術を使い、限られた納期の中で、可能な限り
安いコストで商品化するための活動

栄藤>この区別を知った上で、チーム構成を考える。あるサービスに欠かせないミッシングピースの最後の一つを研究が完成させ、開発が組み上げるというのが、R&D冥利の一つ。